カリフラワー(野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

カリノフソー(野)	米類、	にな	49	/ '類	ノタ	冰辰多	かりの	E/H (	523	))		
	作用	人	使用	使	使	根	根	ベ	菌	黒	黒	軟
	機	畜	時期	用	用	IJ		,		す	-	34
薬剤名	構分類コ	毒	日日	回	条	Š	朽	と	核	す	腐	腐
	1		数									
	ド	性	<u> </u>	数	件	病	病	病	病	病	病	病
スターナ水	31		14	2								0
トップジンM水伊	1		1	2					0			
ベンレート水〇	1		7	3					0			
アフェットFL*1	7		1	3			0		0	0		
パレード20FL*1	7		1	3					0	0		
	'		*f	1	☆				0			
ケンジャFL*1	7		1	3					0	0		
スクレアFL	11		1	3					0			
メジャーFL*1	11		1	3				0	0	0		
ファンタジスタ顆水*1	11		3	3					0	0		
オラクル顆水	21		*c	1 2	☆	0						
オラクル粉	21		*c	2		0						
ライメイFL	21		7	4				0				
			3	4				0				
ランマンFL	21		14	1		0						
			*e	1	☆	0						
フロンサイドSC	29		*c	1		0						
フロンサイド粉	29		*a	1		0						
オリゼメート粒	P2		*b	1								0
ネビジン粉	36		*a	1		0						
ネビリュウ粉粒	36		*c	1		0						
ヨネポン水	M1		1	4							0	
ダコニール1000FL	M5		*d	3				0				
シグナムWDG*1	7 · 11		7	2				0	0	0		

<sup>\*1:「</sup>はなやさい類」での登録

⑤:チオファネートメチル含有剤 ◎:ベノミル含有剤 ⑤を使用した場合には同じ作での⑥は使用しないこと。その逆も同様(種子への処理および塗布処理を除く、詳細はP.856参照)

<sup>\*</sup>a:播種又は定植前 \*b:定植時 \*c:定植前 \*d:出蕾前(但し収穫14日前まで)

<sup>\*</sup>e:定植前日~当日 \*f:育苗期後半~定植当日

<sup>☆:</sup>セル成型育苗トレイ又はペーパーポットで育苗している苗に灌注処理する。

カリフラワー(野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

カリノフリー(野	『米類、	17	٦,٠	7	21	一头	貝ひ	り豆	録	長	架 代	ン17	2川	C.	さ	<b>つ</b> )				
		人	使	使	使	ア	ア	力	コ	ア	ハ	Ξ	ハ	シ	オ	ウ	ネ	キ	コ	そ
	作		用								イ		ス	口				ス	ガ	ĺ
	用					ブ	ザ	ブ			マ	4		イ	オ		キ	ジ		の
	機	畜	時	川	用	_	_			オ	ダ		モ	チ		ワ		ン	ネ	
	構		期			ラ	3	ラ	١.						タ		リ	ノ	ム	١
薬剤名	分						١,		ナ		ラ	ウ	ン	モ			١.	31	シ	他
	類コ	毒	_	同	条	A	ウ	ハ		ム	ノ		3	ジ	バ	バ	ム			ĺ
	ī	1141	日		//<			バ			メ	ム	_	3	_		シ	ハ	類	害
	ド		数			シ	マ				イ		ト	1	コ		1	ム	幼	ĺ
		性		粉	件	粘	粘	4	ŦĬ	シ	ガ	シ	ゥ	י.	ŦĨ	粘	類	シ	电	虫
スピノエース顆水	5	14	3	3		炽	大只	/	0	_	/	_	7	9	/~	大只	大只	_	14	14
ジェイエース溶	1B		14						Ŭ			0								
ダイアジノン乳40	1B	劇				0			0	0								0		丰
, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,			*a	2					Ť	_							0	_		ケ
ダイアジノン粒5	1B		*b														0			
			30	2															0	
マラソン乳	1B		3	5		0	0	0		0										
アディオン乳	3A		3	5		0			0											
ガードベイトA粒	3A		*e	5													0			
アクタラ顆溶	4A		7	3		0														
アクタラ粒5	4A		*c	1		0														
ベストガード溶	4A		1	3		0	0													
モスピラン顆溶	4A	劇	7	3		0			_	0										
フィールドマストFL*1	4E		3	2					0	~	_	_	0	0						
ディアナSC	5		1	2			0		-	0	0	0	0							
アニキ乳	6		1	3					0				0							
アファーム乳	6		3	3			0		0	0					0					
コルト顆水	9B		1	3		0														<u> </u>
コテツFL	13	劇	3	2					0											
アタブロン乳	15		7	2					0										$\vdash$	
カウンター乳	15	Hart.	7	2		0							0							
ハチハチFL	21A	劇	3	2		0			0										$\vdash$	
アクセルFL	22B		1	2					~	0	0	0								
フェニックス顆水	28		1	2					0		0	0	0						$\vdash$	
プレバソンFL 5	28		*d	3	☆				0	0			0							$\vdash$
ベリマークSC	28		1 *d	1	☆				0	0			0						$\vdash$	
ウララDF	29	-	^a		W	0			9	9			9						Н	
グレーシア乳*1	30		7	2	H	0	0		0	0	0	(C)	0	0	0	0				
グレーシア礼 ブロフレアSC*1	30		1	3			9		0	_	_	0								
ファインセーブFL	34	劇	3	2			0		0	_	0		9	0		9				
プレオFL	UN	×1.1	3	2	Н				0			0	0							$\vdash$
																				$\vdash$
アベイル粒	4A • 28		*d	1						0			0							
ミネクトデュオ粒	44 - 00		*c	1		0			0											
ミイグトプユタ科	4A • 28		*c	1		9			0											

<sup>\*1:「</sup>はなやさい類」での登録

<sup>\*</sup>a:播種時又は定植時 \*b:定植時 \*c:育苗期後半

<sup>\*</sup>d:育苗期後半~定植当日 \*e:生育初期

ケ:ケラ

<sup>☆:</sup>セル成型育苗トレイ又はペーパーポットで育苗している苗に灌注処理する。

## カリフラワー(野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

主要	更病害虫発生消長	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
病	春まき	-				_	_						
11	黒腐病					_							
害	夏まき												
	(秋どり)											_	
	黒腐病												
中	コナガ												_
	アオムシ												_
害	ヨトウムシ										_		
	コナカ アオムシ ヨトウムシ アブラムシ類												

作型 — ; 栽培期 — ; 収穫期 病害虫発生消長 — ; 発生期 — ; 発生盛期

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
根こぶ病	播種前また	1. 畑の排水を良好にするか、また	各種アブラナ科作物
	は定植前	は高畦栽培とする。	に発生し、土壌伝染す
		2. 石灰施用により土壌酸度を矯正	る。ダイコンでは被害
		する。	はほとんど見ない。
		3. 定植直前に次の薬剤のいずれか	
		を土壌混和する。	高温多湿の年、夏まき
		オラクル粉剤	に多発する。
		全面土壤混和 30kg/10 a	
		作条土壤混和 20kg/10 a	
		ネビジン粉剤	も連作すると多発しや
		全面土壤混和 20~30kg/10 a	
		作条土壌混和 20kg/10 a	ジャガイモの後作では
		フロンサイド粉剤	被害が軽い傾向があ
		全面土壌混和 30~40kg/10 a	- v
ļ	生女性など	作条土壌混和 15~20kg/10 a	薬剤は地層10~15cm の土壌と十分に混合す
	生育期およ	・発病株は根、特にこぶを圃場に	の工機と「万に庇口9
	び収穫後	残さないように早めに処分する。 また収穫後、残渣はていねいに処	る。
		分し、畑にすきこまない。	
根朽病	播種前	・高畝にするなど、圃場、苗床の	キャベツ、カリフラ
1121 1771	7田7里月1	排水を良好にする。	ワーなどに被害が多
	定植時	・植え傷み、特に地際部に傷をつ	く、土壌伝染をする。
	VE/IEP/J	けないよう注意する。	秋穫りの幼苗期~生
	育苗期	1. 発病株は早めに処分する。	育中期にかけて発生が
	~生育期	2. 次の薬剤を散布する。	多い。強風は本病の発
	1.1791	アフェットフロアブル 2000倍	生を助長する。
苗立枯病	播種前およ	1. 過密な播種を避け、苗床の過湿	病原菌はリゾクトニ
	び播種時	に注意する。	ア菌の場合が多いが、
		2. 高畝にするなど、圃場、苗床の	育苗中に雨が多い年に
		排水を良好にする。	はピシウム菌によるこ
			ともある。

## カリフラワー(野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
黒腐病	播種前	・高畝にするなど、圃場、苗床の 排水を良好にする。	各種アブラナ科作物 に発生し、土壌伝染す る細菌病の一種。
	生育期	1. 病原菌は害虫の食害痕などから 侵入するので、害虫の防除を徹底する。	頃、比較的気温が低く 雨の多い年に発生しや
		2. 発生前から次の薬剤で予防する。	すい。とくに台風など による強い風雨は、茎
		ヨネポン水和剤 500倍	葉に傷をつけるため本 病の発生を助長する。
アブラム シ類	収穫14日前	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。	
	まで 収穫3日前 まで	ウララDF2000倍 アディオン乳剤 2000~3000倍	
アオムシ	生育期 収穫3日前 まで	・発生を見たら次の薬剤のいずれか を散布する。 アファーム乳剤1000~2000倍	老熟幼虫は薬剤が効 きにくいので、小さい うちに駆除する。
	発生初期 (但し、収穫	エコマスターBT* 1000~2000倍	
	前日まで)	エスマルクDF* 1000~2000倍	
コナガ	準備期 生育期	1. 広範な地域にコナガコン◆を使用する場合。ハウス内の天井に近い位置に固定する。ハウス・100~400m/10a(100mリール)。株上に沿い、作物上に支柱を用いて固定する。 露地:100~110m(100mリール)。 適当な長さの支柱等に取り付け、圃場に配置する。 露地:200本/10a(20cmチューブ)。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。スピノエース顆粒水和剤5000倍	項参照。
	収穫3日前 まで 発生初期 (但し、収穫 前日まで)	アディオン乳剤 2000倍 アファーム乳剤 1000〜2000倍 コテツフロアブル2000倍 エコマスターBT* 1000〜2000倍 エスマルクDF* 1000〜2000倍	

## カリフラワー(野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ハイマダ ラノメイ ガ(ダイコ ンシン イムシ)	幼苗期生育 初期 生し、収で の は の は で の は で り ま が り ま り り り り り り り り り り り り り り り	・次の薬剤のいずれかを散布する。 チューンアップ顆粒水和剤* 2000~3000倍 フェニックス顆粒水和剤 2000~4000倍	夏が高温乾燥のときに多発する傾向があり、8月上旬以降急増する。生育初期の加害では芯止まりとなる。 *野菜類での登録
ヨトウムシ	生育期 収穫14日前 まで 発生初期 (但し、収穫 前日まで)	1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団 でいるので見つけ次第捕殺する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれ かを散布する。 ジェイエース水溶剤1000倍エスマ	5~6月と9~10月の 2回発生する。 若齢期は葉裏に集団で生息し、表皮を残し 葉肉をかすりような食害する。このよう薬剤を を発見したら、薬剤を 葉裏に丁寧に散布する。老熟幼虫は薬剤が 効きにくい。 *野菜類での登録
ハスモンョトウ	卵期 期期 期期 現り 明期 明期 明期 明期 明期 明期 明期 明期 明期 明期	場合。2~4個/ha。トラップ1あたり1個を取付けて配置する。 3. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 エコマスターBT*2 1000倍 グレーシア乳剤2000~3000倍*3 プレバソンフロアブル52000倍	春から初冬まで数回の発生をするが、多くなるのは8月下旬からである。 *1アブラナ科野菜での登録。雄成虫の誘因(大量誘殺)が目的。使用に当たっては、「昆虫フェロモンを用いた防除資材」の項参照。*2野菜類での登録*3はなやさい類での登録
ネキリム シ類	生育初期	1. 被害のあった株元の土を調べ、 幼虫を捕殺する。 2. 次の薬剤を株元に施用する。 ガードベイトA(粒) 3 kg/10 a	幼虫は夜行性で昼間は 浅い土中などに潜む。